

東京都障害者ピアサポート研修 シラバス案

令和3年度東京都障害者ピアサポート研修カリキュラム検討委員会での議論を踏まえ、東京都福祉保健局作成

【基礎研修シラバス案】				
項目	講義／演習	獲得目標	内容	時間数
ピアサポートの理解	講義	障害領域ごとの歴史や背景、障害領域ごとの大切な視点を学ぶことで、ピアサポートの基本的な意義や効果を理解する。	1.ピアサポートとは 仲間としての支えあい 2.多様な障害ピアサポート 3.ピアサポート活動では、ストレングス視点（強みを活かす視点）が大切 4.ピアサポート活動と障害者の権利に関する条約	30分
	演習		1.あなたの考えるピアサポートやあなたのストレングス（強み）について、自己紹介を交えながら話し合ってみましょう。	60分
ピアサポートの実際・事例	講義	それぞれの障害領域におけるピアサポーターの歴史を踏まえつつ、多様な障害領域のピアサポート活動を理解する。	ピアサポート活動のあゆみ、雇用している立場からの報告・ピアサポーターの立場からの報告 1.精神障害におけるピアサポートの実際・事例 2.身体障害におけるピアサポートの実際・事例 3.知的障害におけるピアサポートの実際・事例 4.難病におけるピアサポートの実際・事例 5.高次脳機能障害におけるピアサポートの実際・事例	70分
	演習		1.ピアサポーターの方は、自分の経験を振り返り、自分の体験の活かし方についてグループで話し合ってみましょう。 2.専門職の方は、経験を活かして活動するピアサポーターとどのように効果的に協働できるか考えてみましょう。	40分
コミュニケーションの基本	講義	ピアサポートの視点を取り入れたコミュニケーション技法や経験の共有により、ピアサポートでのコミュニケーションの基本や大切さを理解する。	1.サポートにはよいコミュニケーションが欠かせません。 2.相談では、積極的に話し手の意図を想像し、自分の想像を確かめ、理解を深める態度が求められます。 3.話している相手の気持ちを考えましょう。自分自身の体験を話したときに気持ちを思い出すとよいでしょう。 4.を聴く環境は重要。プライバシー、距離感、目線、心地よさなどに配慮を。 5.私を主語にする伝え方を心がけましょう。	40分
	演習		次の「あなた」を主語にする伝え方から「私」を主語にする伝え方に変えてみましょう (例文) あなたは事前連絡なしに約束の時間に来ないなんて、非常識だ。	60分
障害福祉サービスの基礎と実際	講義	障害福祉施策の歴史や障害福祉施策の仕組みを学ぶことで、ピアサポーターが雇用される障害福祉サービスの歴史や現状、その仕組みなどを理解する。	1.障害福祉サービスの歴史 2.障害福祉サービスが提供されるしくみ 3.障害福祉サービスで働く職員 4.多様なピアサポートの活用	40分
	演習		障害福祉サービスにおいて、ピアサポートがどのように活用されるのか、話し合ってみましょう。ピアサポーターの方は「どんな活躍の場があるか」、専門職の方は「どんな雇用のあり方があるか」という視点で考えてみましょう。	20分
ピアサポートの専門性	講義	ピアサポートの具体的な専門性や倫理と守秘義務を学ぶことで、ピアサポートの専門性を理解する。	1.わたしたちの大切な強み 2.倫理と守秘義務	30分
	演習		1.ピアサポーターの大切な強みについて、どう思いますか。講義で学んだことを踏まえて、あなた自身の考えをお話ください。 2.ピアサポーターと専門職と一緒にサポートすることについてどう思いますか講義で学んだことを踏まえて、あなた自身の考えをお話ください。	50分

東京都障害者ピアサポート研修 シラバス案

令和3年度東京都障害者ピアサポート研修カリキュラム検討委員会での議論を踏まえ、東京都福祉保健局作成

【専門研修シラバス案】				
項目	講義／演習	獲得目標	内容	時間数
基礎研修の振り返り	講義	基礎研修で学んだことを振り返る。	1.ピアサポートの理解 2.ピアサポートの実際・実例 3.コミュニケーションの基本 4.障害福祉サービスの基礎と実際 5.ピアサポートの専門性	30分
ピアサポーターの基礎と専門性	講義	リカバリーの経験がピアサポーターの専門性の基盤であることを知る。その上で、経験に基づいた「傾聴」「共感」「受容」といった専門性を発揮し、当事者とのより「対等」な関係性を構築することで、ピアサポーターとしての支援の幅と質を高める。	1.「障害にとらわれずにありのままの自分らしく生きる」（リカバリー）の概念について 2.障害者ピアサポーターとしての専門性とは 3.「経験を振り返り言語化すること」（リカバリーストーリー）の大切さ（言葉にしてみること）	40分
	演習		（事前に各受講者にて振り返りの個人ワーク） 1. 経験について振り返り、グループの皆に共有しましょう。また、グループ内の他の人の話をしっかりと受け止めましょう。 （例）障害によって感じた困難、その時周りにはどんな風にしてほしかったのか、一歩踏み出すに当たってのきっかけ 2. 人生の困難は、病気や障害に関わらず、誰にでもあるものです。障害の有無に関わらず、自身の経験を振り返りグループの皆に話してみましょう。また、グループ内の他の人の話をしっかりと受け止めましょう。	60分
ピアサポートの専門性の活用	講義	ストレングスなどの重要な視点を確認した上で、自身の経験の効果的な伝え方を学ぶことで、ピアサポートの専門性の活かし方を理解する。	1.専門性を活かすために重要な視点 2.専門性の活かし方を具体的な例から学ぶ	40分
	演習		<事例を通じたディスカッション> ～～以下、ディスカッション時の視点（参考）～～ ・Rさんはどういう人でしょう。想像してみましょう。 ・RさんのストレングスとRさんの環境のストレングスを見つけてみましょう。 ・Rさんの思いに寄り添いながら、Rさんにはどんな支援が必要か考えてみましょう。 ・Rさんに伝えたいあなたの経験を考えてみましょう。	30分
【障害者】 関連する保健医療福祉施策の 仕組みと業務の実際	講義	関連する保健医療福祉施策の歴史や仕組みを学ぶことで、ピアサポーターが雇用される障害福祉サービス等の歴史や現状、その枠組みなどを理解する。	1.関連する保健医療福祉制度において働く上での基本的な知識を学ぶ。 2.関連する保健医療福祉の各々の制度的成り立ちを知る。 3.各分野での実際の業務に触れる。	40分
	演習	ピアサポーターは多様なサービスにおいて配置されているが、どのような障害福祉サービスがあるのかを具体例を通して理解する。また、それぞれの事業において、ピアサポーターがどのように活躍しているか、活躍ができるかを検討する。	1.「自分だったら、これまでの経験を活かしてこの機関（事業所）で働いてみたい」というところがありますか？ 2. 自分自身が利用したことがなかったり、あまり知らないサービスについて、詳しく知るにはどうしたら良いでしょうか？グループ内で情報を共有してみましょう	40分

東京都障害者ピアサポート研修 シラバス案

令和3年度東京都障害者ピアサポート研修カリキュラム検討委員会での議論を踏まえ、東京都福祉保健局作成

【専門研修シラバス案】				
項目	講義／演習	獲得目標	内容	時間数
【事業所】 ピアサポートを活用する 技術と仕組み	講義	ピアサポーターにとって働きやすい職場とはどのような職場なのかを考える。一緒に働く職員にとって働きやすい職場とはどのような職場なのかを検討し、尊重しあえる関係性をつくっていくことの重要性を理解する。	1.ピアサポーターがいることで、利用者に対してだけでなく、組織に対しても良い変化が生まれることが期待される。 2.ピアサポーターを雇用する職場には、「病気・障害への理解」、「人として尊重すること」、「ピアサポーターの専門性への理解」が必要 3.ピアサポーターが働く環境や条件として、「ピアサポーターが相談できる相手が職場内にいること」、「適正な賃金」、「職場内での人間関係」が重視されている。	40分
	演習	なぜ、これらの状況に陥ってしまうのか、背景を考えてみましょう。 ・ピアサポーターがいることで、利用者に対する愚痴を言いにくくなった（言いにくくなるのではないかと専門職がこぼしています。 ・ピアサポーターがなかなか自分の意見を言ってくれません。 ・ピアサポーターと他の職員とで、意見が衝突しました。		40分
【障害者】 ピアサポーターとしての 働き方	講義	労働者としての権利と法律、倫理基準について学ぶことで、支援者として働くことに当たって必要な知識を得る。	1.労働者としての権利と法律を知りましょう。 2.倫理基準について知りましょう	30分
	演習	労働者としての権利の行使や支援者として働くに当たっての倫理について、具体的事例を通して考える。	講義で聞いた内容に関連して、過去に実際に困ったことはありましたか？また、その時、どのように解決しましたか？ 【労働者としての権利の行使】と【支援者として働くに当たっての倫理】のそれぞれについて、話し合ってみましょう。	40分
【事業所】 ピアサポーターを活かす 雇用	講義	ピアサポーターの雇用について調査結果や実践例を確認しながら現状を知る。	1.ピアサポーターの雇用について調査結果や実践例を確認しながら現状を知り、どのような活躍の場があるのかなどを学びます 2.ピアサポーターが活躍しやすい条件は何かを考え、自分達の事業所ではどのような準備をすればさらにピアサポーターと専門職との協働した働き方となるのかなどを検討しましょう。	30分
	演習		以下の点について、グループで意見交換をしてみましょう。 ・あなたの機関において、ピアサポーターと共に働く上での良い部分はどのようなことでしょうか。	40分
セルフマネジメントとバウンダリー ～ピアサポーターが葛藤しやすい状況～	講義	自分自身と向き合うことの大切さと自分自身を大切にすることの意味を再認識する。過去の失敗などを通して、ピアサポーターとして働くことで陥る葛藤ややりがいを共有し、対応について一緒に考える。	1.役割葛藤、二重関係などピアサポーターが葛藤しやすい状況を知る。 2.「他者との適切な境界線と距離感」（バウンダリー）を意識し、自分と相手を大切にしている関係性を学ぶ。 3.病気や障害をもちながら働く上でのセルフケアの大切さを知る。	30分
	演習		1.自分の障害、病気や薬を理解するためにしている方法は何でしょうか？ 2.あの日他者との適切な境界線と距離感（バウンダリー）を意識していればよかったとふりかえることはありますか？	40分

東京都障害者ピアサポート研修 シラバス案

令和3年度東京都障害者ピアサポート研修カリキュラム検討委員会での議論を踏まえ、東京都福祉保健局作成

【専門研修シラバス案】				
項目	講義／演習	獲得目標	内容	時間数
チームアプローチ	講義	チームとは何か、また、チームの一員としてピアサポーターが働くために留意することや役割について学ぶことで、所属機関（チーム）におけるピアサポーターの役割と協働における留意点を理解する。	1. チームワークについて学ぶ 2. チームワークにおけるピアサポーターの役割と留意点について理解する	40分
	演習		1. ピアサポーターが協働するチームの構成員について考えてみましょう 2. チームによる支援において、ピアサポーターが他の職種の専門職と協働していくために、どのような工夫をしていくことが考えられますか 3. チームにおけるピアサポーターの役割について考えてみましょう	60分